

【コーディネーター（久世）】それでは、今回、白鳥の拝殿踊り保存会による地域に誇る拝殿踊りをごらんいただきましたが、白山文化が生み出した白山芸能について、最初に曾我先生より10分程度で御紹介をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## パネリスト

### 「白山芸能とデジタルアーカイブ」

曾我孝司氏(郡上市文化財保護審議会委員)



今日は白山芸能とデジタルアーカイブということで、特に白山文化を芸能の観点から見ていきたいと思います。画面をごらんください。

最初に、霊峰白山でございます。これが高鷲町の、ひるがの牧歌の里というところがございまして、そこから撮った白山の写真でございます。

右は、大白川郷のアワラダニというところから撮った写真でございます、なかなか白山が白雪を抱いてかなりきれいに見えます。この白山ですが、連峰の一番上のところ、向かって左ですが、これが御前峰という一番高い峰でございます。標高が2,702メートルで一番高い標高でございます。そして、ちょっと見えませんが、もう一つ大汝峰というのがございます。それから、右が剣ヶ峰です。この3つの峰を称して「白山」と呼んでいるわけですね。

ただ僕ら郡上の人間は「何だ、もう一つあるやないか」ということを思いますね。これは平面ですので写りにくいのですが、左のほうに別山という山がございます。我々郡上の者にとっては、これら4つをまとめたものを「白山」と呼んでいるわけですね。特に信仰上、特に別山というのは大切な山でございます。そして、南北、東西に白山連峰がずうっと広がっています。

これは、右の写真も同じですが、なかなかきれいな朝日に輝く写真でございます。白山は古くから神が鎮座する霊山ということで、尊崇、崇拝と畏怖の対象になっていました。これが霊峰白山でございます。

霊峰白山ということで、一番高い御前峰にはどんな神が住んでいるかということでございますが、これはいろいろ解釈がありますが、白山妙理大権現が鎮座されていると言われていいます。それから、見えない山が大汝峰ですが、ここには阿弥陀如来が鎮座されています。そして、



一番右の剣ヶ峰ですが、何も鎮座しておりません。また、左のほうの別山でございますが、これには別山大行事という神が鎮座されていると言われていいます。

これらの神は、十一面観音、それから阿彌陀如来、そして聖観音の化身であると言われていいます。これらをまとめて信仰するのが白山信仰でございます。

次に、三馬場の成立についてです。先ほど市長さんもおっしゃっていましたが、一昨年で白山開山1,300年になりました。この白山は、霊山ということで、もちろん高いということもありましたが、皆さん恐れ多くて足を踏み入れることができませんでした。この霊山に初めて足を踏み入れた方が、泰澄大師でございます。養老元年

(717年) のことでした。越前の高僧だと言われていいますが、はっきりとはわかりません。

それ以降、修験道などでいろいろな方が白山を神と崇拝し、登る方が多くなりました。特に登る方が多かったのが、美濃と越前と加賀のほうの人でしたので、三方から登拝道が整備されました。そして、その登拝の入り口に粗末な寺社が建てられました。

これがどんどん発展して、一番左の写真ですが、現在の、長滝白山神社、郡上市白鳥町長滝でございます。長滝の白山神社の神を撮るには、ここが一番いいポイントでございます。それから、加賀では白山市三宮町の、白山比咩神社でございます。真ん中の写真です。手前に見えるのはおみくじです。それから、越前が勝山市平泉寺町の、平泉寺白山神社でございます。一番右です。写っている鳥居は二の鳥居です。手前のほうに一の鳥居がありまして、階段がずうっと続いております。そして、突き当たりが拝殿です。その裏に本殿がございます。そういうことで白山の三馬場が成立いたしました。

## 2 三馬場の成立

- ・養老元年(717) 泰澄大師が白山に最初に登拝。
- ・天長七年(832) 美濃、越前、加賀の三方から登拝道が整備される。
- ・登拝道の登り口に寺社が建てられ、白山信仰の拠点となる。(白山の三馬場)



(左) 長瀧白山神社 (中) 白山比咩神社 (右) 平泉寺白山神社

## 3 白山信仰の流布

あくとろのみ

- ・白山の神は農業水を供給する「水分神」として長良川、九頭龍川、手取川流域で信仰される。
- ・三川流域に共通の風俗、習慣、生活様式が形成される(白山文化圏)
- ・三馬場付近では白山の神に豊穰を祈願する白山芸能が生まれる。



水分神 白山文化圏

それでは、白山の神は一体どういうものとして信仰するかということですが、いろいろな信仰の対象になっています。簡単に言えば白山の神を農業の神と捉え、水分神(みくまりのかみ)として信仰されています。これは白山信仰で一番主要な神の捉え方だと思います。五穀豊穰、延命息災や家内安全などいろいろありますが、

水分神として、農業の神として捉えられておりました。長良川が岐阜からずうっと下って濃尾平野を潤し、そして伊勢湾に流れ込みます。それから九頭龍川。これは源流が石徹白、あるいは郡上市の油坂の辺りにあります。そこからずうっと流れて福井平野を潤し、今の三国のところへ流れ込んでいきます。そして、手取川です。これは白山の麓の白峰の最北の河内というところ

ろに源流があります。そこから流れまして金沢平野の下のほうから流域を潤し、現在の小松市、安宅の関の上のほうに小松がございます。その上のほうへと流れ込みます。この3川の流域で白山信仰、水分神として信仰がなされていました。

写真は阿弥陀ヶ滝で、これは長良川の源流と捉えてもいいと思います。あるいは夫婦滝という滝が長良川の源流でございます。

左の写真がひるがのの分水嶺というところで、左へ流れますと庄川という川となって、日本海へ流れ込みます。右が太平洋ということで、長良川となって木曾三川を通しまして流れ込んでいるということになりますね。

そうしますと、この3川の流域で共通の風俗習慣とか、似たような生活様式とかが形成されていくようになります。基本的なものはやはり水分神、農業の神ということで、これが基盤となって、白山文化が生まれてきました。この白山文化圏が成立をしまして、この三馬場付近では、白山の神に豊穰を祈願する白山芸能が生まれて、芸能を神に奉納するということが頻繁に行われます。きょう1時から行われました白鳥の拝殿踊りもその白山芸能の代表的な一つでございます。もともとは豊穰祈願のための踊りでございます。

それでは三馬場の芸能にはそれぞれどのような特徴があるかを見ていきます。基本的には豊穰祈願でございます。美濃馬場の場合、長滝白山神社の「延年」が代表的なものとして挙げられます。これは国指定重要無形民俗文化財でございま

す。この中で特に白山信仰があらわれているのが、「延年」の最初に行われている儀式としての菓子讚めというものです。これは拝殿の演台ですが、ここに白山の形を盛った米と、クマを紙張りで折ったものが置かれています。その黒いところは、クリとか豆とか白山の幸が置かれています。これを恐らく僧侶が白山の神に奉納して、豊穰祈願をしたということだと思えます。この長滝白山神社で今でも延年が行われております。

酌取りという演技が行われ、それが終わりますといよいよ白山の延年の演目に入っていきます。9の演目のうちの一つに乱拍子というものがございます。ここでは開運厄除という祈禱札をつけられております。菊の造花をつけてずうっと演台を回って歩きます。これもいわゆる豊穰祈願ということで、美濃馬場の延年は豊穰祈願の神事、あるいは芸能と言えるでしょう。

次に、越前馬場です。これは今立郡の池

#### 4 三馬場の白山芸能（豊穰祈願）

##### ○美濃馬場

長滝白山神社の「延年」（国指定重要無形民俗文化財）

- ・「菓子台」の前で豊穰祈願の「菓子讚め」がなされてきた。
- ・旗目<乱拍子>で様況が「開運厄除」の祈禱札を手にし、舞台を歩行する。



「菓子台」



<乱拍子>

##### ○越前馬場

今立郡池田町水海の「能舞」（国指定重要無形民俗文化財）

- ・豊穰祈願の神事型<式二番>と能が奉納される。
- ・廃絶した地域では翁面に豊穰を祈願する「お面様まつり」が行われている。



<式二番>



<田村>



「お面様まつり」

田町、水海（みずみ）というところで能舞が現在も行われております。池田町は、岐阜県の本巣市に根尾というところがあり、能郷白山という山がございますが、その裏方に位置します。この池田町一帯の集落で能舞が行われております。この能舞は、豊穰祈願の神事の式三番が中心の能です。左が式三番でございます。翁の舞、千歳の舞、黒式尉の舞と舞われまして、その中心が翁の舞でございます。

それから、これは娯楽とも言えるかもしれませんが、式三番の後に行われる田村でございます。田村というのは今の能です。世阿弥が作りました能の一部です。ただ、この2つとも謡はしません。主人公が囃子方に合わせて、ただ手を広げて立っているだけ、こちらも演技をするだけです。現在の田村と全く違いますが、このようなものが奉納されております。

しかしこれらは、池田町の水海で現在行われていますが、ほとんどが滅びてしまいました。滅びた地域では、現在も2月ごろを中心に、この式三番で使われた、翁、父尉、黒式尉の3面を神前に飾り、神主が五穀豊穰を祈願します。勝山市の滝波、池田町の志津原、もう一つは谷という集落がございます。この3カ所で豊穰祈願のこのような神事が行われております。お面様祭りでございます。

最後に、加賀馬場、3つ目の馬場でございます。ここは白山市白峰のかんこ踊りが有名でございます。かんこ踊りは、かんこをたたきながら、あねさんかぶりの役者が野良着姿で踊ります。以前は6月18日の白山開山日に行われていましたが、現在は白山まつりということで、新暦7月18日に行われています。かつて、かんこ踊りは白山の遥拝所がございます岩根神社というところで踊られていました。

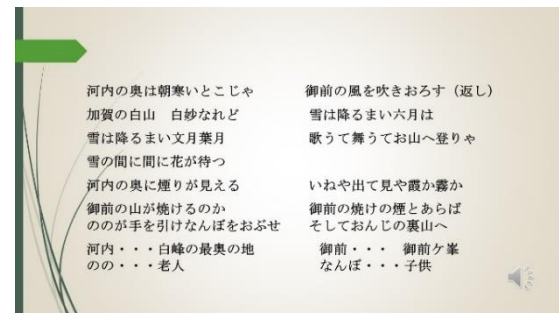
この岩根神社は、現在はとても小さいですけど、かつてはもっと広い神社でございました。雪解けや嵐の洪水で流されてしまい、集落がほとんど滅びてしまいましたが、多くの出作農民が白山に入っていたため、6月18日にここでみんなで踊りました。それは、本当に白山にお世話になっているということで、白山の讃歌を歌って豊穰祈願をした踊りでございます。これが白山まつりでございます。

このように、白山三馬場というのは、基本的には豊穰祈願が中心の芸能でございます。これが白山文化の一つだと言えるかと思えます。

少し時間がかかるかもしれませんが、加賀馬場の歌を聞いてみましょう。これが歌詞でございます。河内というのは白峰の奥



○加賀馬場  
白山市白峰の「かんこ踊り」 (県指定重要無形民俗文化財)  
・白山遥拝所の岩根神社で踊られてきた。  
・白山讃歌、豊穰祈願の念が歌い込まれている。



河内の奥は朝寒いとこじゃ 加賀の白山 白妙なれど 雪は降るまい文月葉月 雪の間に間に花が待つ 河内の奥に煙りが見える 御前の山が焼けるのか ののが手を引けなんぼをおぶせ 河内・・・白峰の最奥の地 の・・・老人	御前の風を吹きおろす (返し) 雪は降るまい六月は 歌うて舞うてお山へ登りゃ  いねや出て見や霞か霧か 御前の焼けの煙とあらば そしておんじの墓山へ 御前・・・御前ヶ峯 なんぼ・・・子供
--	---

のほうです。下のほうに書いてありますのは地元の言葉です。ということで、ちょっとお待ちください。一部だけ聞きますので。

(かんこ踊り)

これは、江戸時代に白山へ登られた池大雅という画家でございます。白山に登る途中、雨が降って登れなかったということで、2回、このかんこ踊りを当時のお金で24文を払って見た、という記録が残っております。

では最後に、白山芸能の保存ということで、今まで見てきました三馬場の芸能ですが、この芸能は形態や演目にかかなりの変遷が見られます。江戸時代から比べるとかなりの変わりようです。

そこでデジタルアーカイブでこれから記録していく場合には、正確な芸能の記録をしっかりと残しておくことや、いろいろな方面、あるいはいろいろな場所から撮影すること、そしてそれを保存しておくということが大切です。

最後に、まだ世に知られていない芸能が、特に長滝白山神社にはございます。例えば、弁天七夕祭という子どもを中心とした祭りがございます。子どもが家々を回って五穀豊穰を祈願しながら、自分たちの成長も願うという祭祀が行われています。

もう一つ、5月5日に長滝白山で例祭があります。地元ではででん祭と呼んでおります。この前日にみこしが3つ拝殿に置かれます。三社を祭っているみこしです。この下をくぐると子どもの成長に大変いいという行事もございます。あまり知られておりません。

それから、2月14日に行われる天神祭でございます。これも、長滝地区の子どもの成長を願って神主が祝詞を上げるという行事でございます。これらもデジタルアーカイブのインターネットでもって発信していけば、かなり世に知られるようになるのではないかと期待しております。

私の持ち時間は10分でしたので、少し時間を超えたかもしれませんが、これで終わらせていただきます。どうも御清聴ありがとうございました。(拍手)

